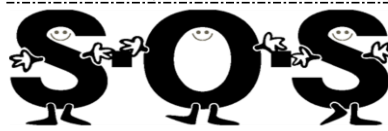


◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



vol. 206通信
H29年10月7日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ http://www.s-o-s.co.jp

＜利用状況 案内板 (☆募集中★満員)＞

☆ナイス・ケア ☆=利用者さん募集中
☆ナイス・デイ (定員 10名)

日	月	火	水	木	金	土
4	7	6	4	5	5	5

☆ナイス・ホーム(定員 21名、現在登録者 19名)
☆愛宕の家(定員 17名中入居者 12名)
入居の問い合わせ・見学お待ちしております。

☆つしま紹介所

☆ナイス・キッズ

～参考にご利用ください～

＜10月行事予定＞

- 4日 運動会
- 10日 遠足
- 20日 総合防災訓練
- 29日 誕生日会

＜不定期行事＞

天気や意欲等で状況判断し、外出先一覧を参考に社会生活に参加します。

＜教室案内＞

・和太鼓 月曜日(年間 35回)

場所：愛西市川瀬コミュニティ

・コーラス 水曜日(月 2回)

場所：喫茶てのひら

※職員やキッズ達の趣味活動を兼ねて各教室を発足。地域の方々にも参加していただけます。

各教室月謝制で、定員あり。詳細はお問い合わせ下さい。

通い・泊まり・訪問／ナイス・ホーム

ナイス・ホームは、ご存じの通り、通いと訪問と泊まりが一つの事業所で利用してもらえる制度。そのため、一日の生活、自宅での様子なども把握しやすい。これを実感できた出来事がある。

登録当初、退院直後と介護者の健康上の理由で、しばらく連続で泊まりを利用して頂いたYさん。在宅生活に移行された時は、通いと泊まりの利用が中心となりました。それから約1年半位たった時、自宅での介助が大変となり、訪問対応が追加となりました。

Yさんは歩いて自宅内を移動します。高齢のYさんにとって、「歩く事」は大変な運動。でも歩けなくなることで弊害も出てくる。そう考えると、出来るだけ今歩ける状態を続けてもらいたい。ご本人も、ご家族、私達も同じ思いです。自宅の敷居の段差はあえて解消しないで、足を上げる運動に…。手すりではなく、住み慣れた自宅の建具を利用し、掴まりながら歩かれます。それならば、通い利用時は、足の筋力が低下しないように歩く機会を増やす、日中自宅では計算や書写などをして過ごしてみえると聞けば、通い利用時には鉛筆を持ち続けるための握力を維持する運動をするなど。自宅での生活が続けられるために、本人が出来る事を継続、維持する為にみんなで相談する。

訪問に何うことで、自宅での過ごし方を把握する事が出来、それを通いや泊まりの対応に繋げていけます。通い、泊まり、訪問が一つの事業所、同じスタッフで対応できるメリットを十二分に発揮しなければ！！(K・S)

津島市内で唯一の小規模多機能型事業所です。随時、見学受付OKです。

子どもの成長&じーちゃんばーちゃんの反応／ナイス・キッズ

毎週土曜日朝から施設内あちらこちらに出没してはやんちゃっぷりを発揮している2歳児のK君。先日も出来たてのてんぷらに手を伸ばし、つまみ食いをしようとしていた。それを見逃がさず、「こら～っ触っていいん!!」と、ばーちゃんの一喝。その後も、「今からみんなが食べるものを触ってはいけないんだよ」と叱られた。K君はてんぷらが入ったままのお口をぽかんと開けてあ然。行動も激しさを増し、室内で遊んでいても、悪さをすればすぐにじーちゃんばーちゃんの一喝がみられる。今までは何となく“赤ちゃん赤ちゃん”していたK君に、どのじーちゃんばーちゃんも「あれあれ、危ないよ～」などとハラハラしながらも、目を細め見守っていた。それが今では、「これっそんなことをしてはイカンイカン!!」と躰の域に変わってきている。

子どもの成長も感じてはいるが、どこまでが躰、どこまでを「まあまあ」とするか、私達は迷うところ…。しかし、さすがじーちゃんばーちゃん。成長と共に、変化する対応に感謝。子ども達の見守り&お世話いつもありがとうございます。(R・W)

介護のS・O・S！全員で秋の大運動会

＜プログラム＞

・選手宣誓・ラジオ体操・玉入れ・ボトル倒し・パン食い競争・すず割り

来る10月4日、天気にも恵まれナイス・デイ、ナイス・ホーム、愛宕の家、全体で大運動会を開催いたしました。選手宣誓から始まり、玉入れとボトル倒し。安全のため、座ってやってもらうようお願いするも、みなお尻が軽く立ち上がる。そしてパン食い競争は『手を使わずに口でパンを取る』というルールにも関わらず、手が出る…。普段上がらない手がここぞとばかり上がる。勝負事となると皆必死。あらゆる筋肉と関節を動かされました。



社内研修／S・O・S

認知症実践者研修を受けたスタッフが講師となり『認知症ケアについて』をスタッフで学び合いました。今回は今現在、スタッフ間で関わり方に悩んでいる利用者さんについて、事例検討会を行いました。

＜事例内容＞

94歳、耳がほとんど聞こえない認知症のTさん。元気で良く食べ動かれていたが、認知症の進行により、食べ物と認識できず、食べることを忘れてしまった。そのため体力低下。相手の意図が伝わらないと不安になり攻撃的になる。

そこで、コミュニケーション技法として“ユマニチュード”という指針を基に、スタッフ同士、今の対応の再確認と、今後どう関わるべきかを具体的に学び合いました。

＜ユマニチュードのポイント＞

- 「見る」顔の正面から同じ高さで眼を合わせる
- 「話す」今、何をしているのか実況するように、頻繁に優しく伝える
- 「触れる」腕を上からつかまず、必ず下から支える等、優しく
- 「立つこと」を勧める、支援する

耳が聞こえずらく、感情の起伏が多くなっているTさんに対して、スタッフ個々が自分の態度の在り方を振り返る機会となりました。(Y・O)



自立と支援／ナイス・ケア

夫婦二人暮らし。自宅で二人で倒れており、そのまま二人共入院。先に退院が決まった奥さんの在宅生活が始まるのを機に、私たちは関わらせて頂くようになった。

サービス計画書には、“生活全般にわたる援助”と挙げられている。入院中に落ちてしまった筋力で、どんな風に自宅で過ごせるのか、ご本人の心身状態を確認しながらの初回サービスとなった。まずは、ヘルパーを快く迎え入れて下さり安心。そして、調理や排泄の声かけには、「もうやった。自分で出来るからいい」との返答。「今までの人生、頑張ってきたんだから、人の手を借りなくても自分で出来る。」そんなKさんの思いと、サービス内容を考えながら訪問を続けた。そして、Kさんの生活や援助が落ち着いてきたころ、今度はご主人が在宅生活を始める事となる。Kさんはご主人を大切に思っている。『お世話は自分がしなくては』という気持ちが高い。腰が痛くてもきつと無理をされるんだろうな…と心配がありながらも、夫婦二人の在宅生活が始まった。

それからしばらくし、訪問する度に、Kさんはベッドに横になっている事が多くなった。頑張り過ぎないで、Kさんがやりたい事、望む事を実現できるように必要な援助だとこちらから声に出すことも必要なのかもしれない。出来る事を奪う事もしてはいけない。しかし、どこからを自立とするか…難しい選択かも知れない。最終的には、Kさん夫婦らしい在宅生活が続けられるようなサービス提供をしていきたいと思う。

そして具体的な援助を訪問介護計画書にあげて、ケアマネージャーや他事業所と共有し連携していきたい。(H・A)

介護プロフェッショナルキャリア段位制度進行状況

＜段位取得者＞

1&2&3&4 期生(11名)

＜現在、技術評価中＞ (3名)

SOS通信はホームページへの掲載と合わせ、地域の関係者や事業所、ご家族様へも発送しています。

10月の発送部数 103部

＜編集後記＞朝晩涼しくなってきました。これからは乾燥の季節。かぜ、インフルエンザ等の感染症が心配です。事業所内には手指消毒、マスクなどの備品不足がないか再確認。自宅でも予防対策準備をお願いします。(Y・O)